

2003年11月12日17時27分頃の紀伊半島沖の地震について

今日(12日)17時27分頃、紀伊半島沖を震源(深さ約390km)とするマグニチュード(M)6.5(速報値)の地震が発生しました。この地震により、福島県の浪江町、茨城県の日立市、栃木県の宇都宮市で震度4を観測したほか、北海道から近畿地方にかけて震度1から3を観測しました。この地震による津波はありません。

この地震は沈み込む太平洋プレート内の深部で発生した地震です。今回の地震のようにプレート深部を震源とする地震が発生した場合には、プレート沿いに地震波が効率よく伝わるために、震源から離れていても震度が大きくなることがあります。過去には、1993年10月12日に東海道沖で発生した地震(深さ391km、M6.9)により同様の震度分布を観測しています。

現在のところ震度1以上を観測した余震は発生しておりません。

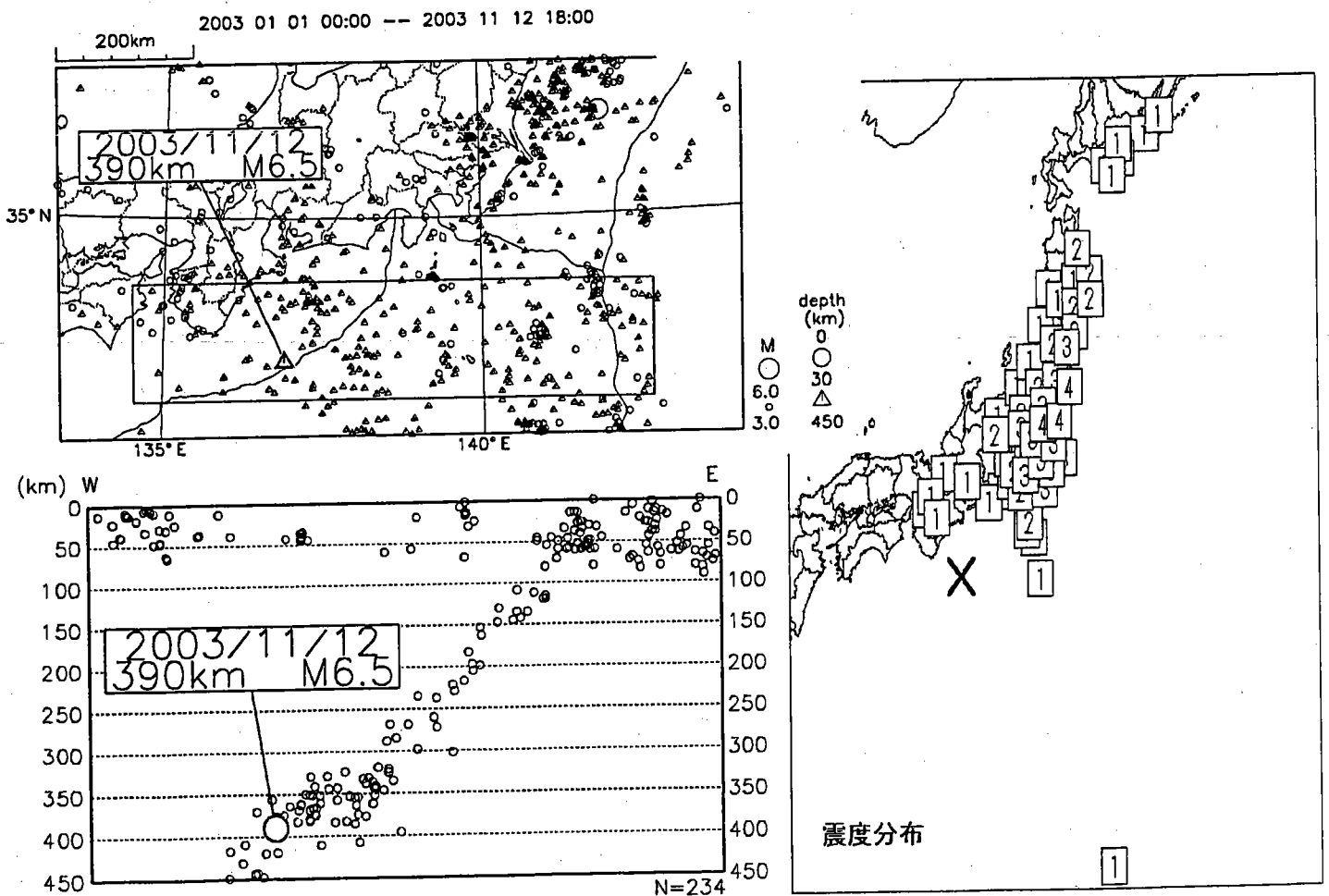
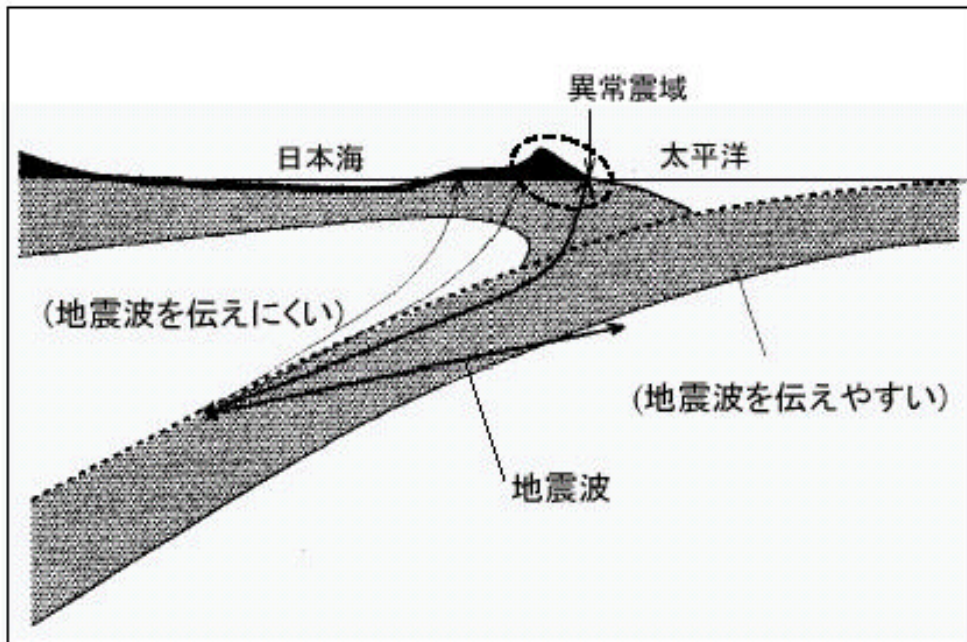


図 震央分布図および矩形内の断面図 2003年1月1日～2003年11月12日18時

異常震域

海洋プレートに沿って伝わる地震波は減衰しにくく、図の地震では、太平洋側を中心として南北に延びた震度分布となった。通常、震度分布は震央を中心としたほぼ同心円状となるが、このように震央の近くより離れたところで揺れる領域を異常震域という。この例のように震源の深い地震や、震源が浅くても日本海溝近くで発生した地震では南北に延びた異常震域が現れる。



図

左は異常震域の発生の模式図。右は観測例。

震度分布図

1993/10/12 00:54:20 東海道沖

32° 01. 5' 138° 14. 6' 390. 7km M6. 9

別添 2

